

# 主の掌 (たなごころ) の中で

2021年9月26日

詩篇 139篇

序：ダビデ詩篇

汝-我 あなた-私 主なる神-造られた人間

神の全知、遍在、全能、みこころの測り難さ、悪者への義憤、内省

## I. 神はすべてを知っておられる 1~6節

(1)私を探る (丁寧に徹底して調べる)

(2)私を知る

私が立つのも座るのも、歩くのも伏すのも (行動・外側)  
私の思いを読み取る (心・内側)  
こどばが発せられる前に

(3)私を制し、守り、祝福なさる (神に知られることなしには全く動けない)

(4)人間が自分の尺度で神を知ろうとすることは愚か・不可能

神の知識は無限、人間の知識はわずか  
神の私に関する知識=無限 > 私の神に対する知識は微々たるもの  
しかし、神も自分とほぼ同じ程しか知らないと考える (無知・傲慢・不信仰)

(5)神がすべてをご存じであることは、恐れ、畏怖を呼び起こす  
安心、慰め、励ましとなる

誤解、誹謗、中傷、裏切り、悲嘆、絶望、苦境

(6)神の全知と自分の無知を自覚する者は、ただ主をほめたたえ、自分を低くする  
神を信じ、信頼し、助けを求め、自分の愚かさを告白するのみ

## II. 神はどこにでもおられる 7~12節

凡神論 (万物に神が宿る) ではない

神は創造主、被造物とははっきり区別される (融合したり、散りばめられたりしない)

(1)神の支配、統治から漏れる場所・領域はどこにもない

御霊、御前から逃れ行けるところはない (地上)

天にもよみにも

東から西まで (暁の翼=夜明けの太陽の光線、海の果て=地中海の果て)

(2)主の力強い御手が導き、引き戻す

(3)主の目を遮る暗闇で身をおおい、光を退けたとしても神にとっては闇も光

” から逃れることはできない

神にとっては、最悪の事態も祝福の始まり?

## III. 誕生の神秘 (神の全能) 13~16節

(1)10ヶ月余、母の胎の中

(2)神の精緻な御業……五臓六腑 (心・肝・肺・腎・脾/腸(大・小)・胃・胆・三・脚)  
(奇しい) 目、鼻、口、手足、数百の骨、皮膚、髪、爪、歯……

60兆個の細胞

胎 ⇒ 外の世界 成長、再生、枯死

細部に至るまで、綴り合わされ、組み立てられた  
骨組みも主の目には明らか

(3)私の生涯のすべての日々・行動が書き記された (私がまだ胎児の時・誕生前に)

IV. 神の御思いを知る 17～18節

- (1)貴いがむずかしい
- (2)その総計は膨大、数え切れない
- (3)眠りから覚めるとき、死からよみがえるとき、私はなおも主とともにいる

思い：神 ⇒ 私 (測りがたく豊か)      私 ⇒ 神 (数えるばかり貧弱)  
神の威厳と慈愛を知る

V. 神に逆らい、冒瀆する悪者＝神の敵、私の敵 19～22節

- (1)悪者の神に対する不義、背き、侮辱に対する憎しみ・憤り
- (2)聖なる義憤……自分の擁護のためではなく、神の尊厳が汚されたことへの  
cf. イエス・キリストの宮きよめ

自分個人の名誉・利益のためには力を尽くして戦うが、神の榮譽のためには  
聖なる怒りをもって戦うことは稀

- (3)神に敵対する者を憎むのは罪か？  
「汝の敵を愛せよ」とあるが？  
怒り、憎しみも正当な対象、方向がある

神を愛する者は、神を侮辱する者を放置できない、許さない

VI. 自分の内省・慎み 23～24節

- (1)他者に向けた刃を自分の内側にも向ける
- (2)自分もまた神の前にはさばかれる者
- (3)神に自分を点検していただくために差し出す  
私を探り、私の心を知ってください  
私を調べ、思い煩いを知ってください
- (4)傷のついた道の有無？

||  
主を、主の御霊を悲しませる (意識・無意識)  
憂えさせる

想像以上に多い？

- (5)主の喜ばれる生き方、とこしえの道に導いてください  
永遠のいのち ヨハネ 17・3

VII. 結び

- (1)私たちは神を小さくしていないか (自分の物差しで)  
歪曲 (自分の理解の範囲に)
- (2)汝－我、あなた－私の関係の親密さ
- (3)創造主－被造物 父－子 (聖・義・愛、全能全知、遍在)
- (4)義憤、内省 (私のゴールはどこなのか)